基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1)観点ごとの分析

観点9-1- 教育の状況について,教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され,評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

授業評価アンケート結果により各教科担当教員が授業改善策を示した「集計結果と教員の自己評価」を冊子としてまとめ蓄積している(資料9-1--2,資料9-2-2)。 平成17年度上17年業公開、授業制度が実施され、授業制度者による授

- 1,資料9-2- - 2)。平成17年度より授業公開・授業観察が実施され、授業観察者による授業観察報告書、授業者による公開授業自己評価報告書を学内専用ウェブサイトに公開し蓄積している (資料9-1- - 2)。

答案や課題など学年成績の評価根拠に関しては,準学士課程 4,5年と専攻科課程について平成16年度より「保管マニュアル」(資料 9 - 1 - - 3)に従って収集・蓄積している。また,準学士課程 1~3年については,平成18年度より「認証評価用試験答案保存実施要項」(資料 9 - 1 - - 4)に従って収集・蓄積している。学年成績の評価方法を示した「学年成績総合評価表」(資料 9 - 1 - - 5),自己点検に用いる「教員自己点検表」(資料 9 - 1 - - 6)に関しては,準学士課程 4,5年と専攻科課程について平成16年度より収集・蓄積している。また,準学士課程 1~3年については,学年成績総合評価表を平成17年度より収集・蓄積している。

授業評価アンケートや授業公開・授業観察などにより教育の状況を点検・評価し,改善・向上に繋げるための「教育点検・改善システム」(資料9-1--7)が整備されている。

資料9-1--1 授業評価アンケート・自己評価の周知文 抜粋

平成 19年3月28日

教 員 各 位

教務委員会

H 1 8 年度後期・通年分「授業理解アンケート」の結果について

19年2月に実施した授業理解に関するアンケート調査の個人データを、3月22日に配布させて頂きました。個人データをご検討の上、今後の授業改善のためにご活用願うとともに、アンケート調査の結果を学生にフィードバックするため、各授業に対するアンケート結果を自己評価して頂きますようお願いいたします。その自己評価のコメントを学科毎にとりまとめ、各クラスに配布したいと考えておりますので、提出締切へもご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

記

自己評価提出要領

- 1)提出期日 平成19年4月27日(金)
- 2) 学生への公表 平成19年6月中に各HRへ配布。
 - **4年生(旧3年生)以上の科目は数値も公表。
 - ***2・3年(旧1・2年生)の専門科目は数値も公表
- 3) 教員への公表 全科目を冊子にして配布。(教員名、教科名、数値も公表)
- 4)提出フォーム 前期科目と同様、別紙 Excel 形式
- 5)提出先 学科の教務委員
- 6) 問合せ先 担当委員 奥崎 (内線:6383 e-mail: <u>okuzaki@hakodate-ct.ac.jp</u>)
- 7)記入上の留意点

自己評価用紙にご記入頂いた文章をそのまま印刷して学生に配布しますので、<u>学</u>生向けの文章表現でご記入ください。

コメントは,反省点と今後の課題を、いずれも150字以内、MS Pゴシック、14ポイントでご記入ください。

資料9-1--2 授業観察報告書,公開授業自己評価報告書

	授	業	観	寮	報	告			
授業観察者	氏		名						
観察日時		月	日		曜日		講目		
学科 学年	第	学	:年			学	科		
科目名	г	学	概論	1					
授業者	氏		名						

学生について

(受講態度、質問・発表の様子について参考になる点・質問等を記入)

授業者について

(説明の仕方、教育機器・教材の使い方、学習意欲を引き出す工夫等

で参考になる点・質問等を記入)

授業全体について

(授業の導入・展開・まとめの工夫、教材研究などで参考になる点・質

問等を記入)

		公開授業	自己評价	西報告書	
授業公開者	氏	名	i		
公開日時		月 日	曜	日	講目
学科 学年	第	学年		学	科
科目名	г	学概論	ı í		
授業観察者	氏	名	i		

授業の自己評価

(授業計画、学習達成目標、指導目的に沿った授業展開が出来たか等

記入)

授業観察報告書を受けて

(授業観察報告をもとに、今後の授業改善にどう生かすか等記入)

(出典 本校ウェブサイト http://webclass.hakodate-ct.ac.jp/)

資料9-1--3 平成17年度版 保管マニュアル抜粋

表-1 講義科目の提出物と並べ方

項目	提出物	提出部数など	注意事項(並べ換えなど)	用紙 サイズ						
	シラバス	1 部	・ シラバスを印刷したものを添付する .	B4 版						
学年月	龙績総合評価表	1 部	・ 付表-1 により作成する(別途,作成上の注意点を示す予定)	(A4版 ³⁾)						
定	試験問題	1 部	・ 試験問題と解答用紙が一体となっていて ,それに模範解答を 記入した場合には , 試験問題は無くても良い .							
定期試験	模範解答	1 部	・ 模範解答には,各問いの配点と合計点(=満点)を記載する.							
験	答案	評価 6 割以上のみ	・ 評価6割以上のものを昇順に並べる 6割未満のものは不要.・ 評価点は,答案の右上に[評価点/満点]で表記する.							
中	試験問題	1 部								
中テス	模範解答	1 部	・ 取り扱いは,定期試験と同じ							
۲	答 案	評価 6 割以上のみ	・ 取り扱いは,定期試験と同じ							
`.	試験問題	1 部	・ 取り扱いけ 定期試験と同じ							
点試	追 ・ 取り扱いは, 定期試験と同じ 試 模範解答 1部 ・ (追試験は, 定期試験や中テストの項									
庚			対応する項目のすぐ後に追試験を並べる)							
_	試験問題	1 部	・ 取り扱いは 定期試験と同じ							
再試験	模範解答	1 部	・ (再試験は、定期試験、中テスト、追試験の項目に対応する.							
海央	 答 案	評価 6 割以上のみ	1部 ・ 取り扱いは,定期試験と同じ ・ (再試験は,定期試験,中テスト,追試験の項目に対応する.対応する項目のすぐ後に再試験を並べる)							
	試験問題	1 部	・ 試験問題と解答用紙が一体となっていて ,それに模範解答を 記入した場合には , 試験問題は無くても良い .							
١.	模範解答	1 部	・ 模範解答には,各問いの配点と合計点(=満点)を記載する.							
小テスト	答 案 ⁴⁾	提出しなくてもよい ⁴⁾ (ホ ゚-タ゚-ライン + 最優秀(1部)	 評価点は,答案の右上に[評価点/満点]で表記する. ポ-ダ-ラインの答案すべてと最高点の答案1部を提出する.ただし,ポ-ダ-ラインのものが4名以下の場合には,評価6割以上の中から成績の悪い順に5名分と最高点の答案1部を提出 							

(出典 平成17年度版 保管マニュアル)

資料9-1--4 認証評価用試験答案保存実施要項抜粋

認証評価用試験答案保存実施要項

1 . 目的

平成19年度に実施される機関別認証評価に対応するために、本科3学年以下についても総合成績評 価表とその裏づけとなる答案等の保存を行い、教育課程の内容、水準および成績評価等が適切である ことを保証する。

2.保存資料(本科3学年以下)

付表-1 学年成績総合評価表 提出日:平成 年 月 日

(1)保存資料一覧

	保存資料	対象科目	保管方法
	前期中間試験答案および模範解答(配点提示)	試験実施科目全	提出 集中保管
_	前期期末試験答案および模範解答(配点提示)	試験実施科目全	提出 集中保管
定期試験	後期中間試験答案および模範解答(配点提示)	試験実施科目全	提出 集中保管
験	後期期末試験答案および模範解答(配点提示)	試験実施科目全	提出 集中保管
	各期における追試験,再試験答案および模範解答 (配点提示)	試験実施科目全	提出集中保管
	- 式績評価表 式、記入方法については、別途連絡	全科目	提出 集中保管
課小	小テスト、課題等についての模範解答または評価	定期試験を行っている科	
課別テス	基準を明記したものを保存。	目で、定期試験以外に小	
Ĩ		テスト、課題、レポート	各教員保管

(出典 認証評価用試験答案保存実施要項)

資料9-1--5

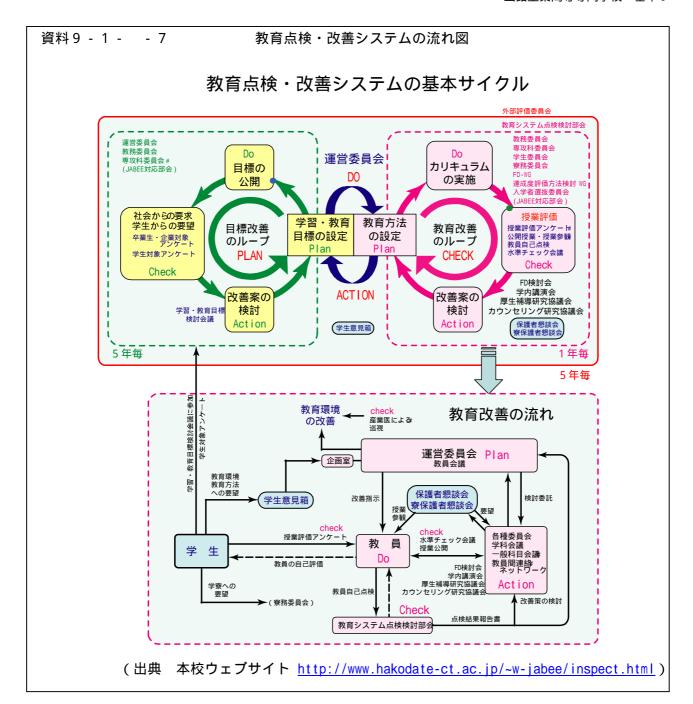
学年成績総合評価(表抜粋)

						H . 1 //%								
科目名							担当者							
年 度	平成 年度	番号	ė	学生氏	名								学年成績	備考
分類番号		1												
学科・専攻1)		2												
子科·奇以		3												
学 年	第 学年	4												
	213 3 1	5												
必修・選択2)		6												
		7						-						
期 間 3)		8 9						1		1				
		10						+	 					
単 位数	単位	11												
		12												
受講者人数	人	13												
# * - # 4\	0	14												
講義回数4)	Щ	15												
講義時間		16												
義 期 末 試		17												
時 答案返 間	却 7) 時間	18												
数合	計 時間	19												
		20						-						
補 講 8)	回時間	21						+		-				
	h41回					-	 	 		+	-			

		42						1	1	1				
	時間は,専攻科で5/6).答案返却を実施し	43												
ていな科). 合衆返却を実施し 目では0時間.	44												
○ 全ての平	業者を対象に行った述	45	<u> </u>											
8) ± (の気) 講(欠席者	講者を対象に行った補 ;がいても良い)のみ記	46 合	L .	it	点									
λ	,	平		iT 匀	点									
その試験等が何	可点満点か記入する	満	,	-5	点									
		1	/30	_			<u> </u>			 				
	-1,B-2など)を記載する	評	価	目	標									
	長紙から転記する	返	却	率	(%)									
実施日を記入す		実	ħ	施	<u> </u>									
保管しているも	らのに	保			管							<u> </u>	$\overline{}$	
学年成績の評価 する(, 等: す).	T方法を具体的に記入 を用いて計算式で示	評	価	方	法									
		1				1								

(出典 学年成績総合評価表)

日名		秋	数值力	小			担当者		渡辺	2 1 1		平元	平成18年度
類番号	JJ29-06Z35-5	- 1	●	6	\prec	100 , , , , ,		年度	項目1 学生取組	項目2 授業評価	項目3 教員評価	項目4総合的満足度	
学科・専攻	環境都市工学科	计件	配	8	\prec	ì	授業評価	平成17年度	4.3	4.3	4.3	4.22	/ 5点
中	第5学年	拉帽	回	2	Υ	09 ~ 69	調査結果	平成18年度	4.4	4.3	4.7	4.5	当9/
・選択	選択	Ę.	不可	0	\prec	0 ~ 69	/	(注意) アンケー	アンケート結果は,各項目の平均点を記入する	7平均点を記入する	. 2		
1 1 1 1 1	, # <i>U</i> = ,		4 - (FARE)-	TI TI K	, k					太枠内は記入不要数章シュニーに発展しています。	で要します (単一) (単一) (単一) (単一) (単一) (単一) (単一) (単一)	计	п
K K	ナン・ない		dx4c ~ I		は非常研					*X	XIII DE MANA	χη.	ζ
	点検項目			7	授業評価 アケー結果	; :- :-	評価理由		評価点		公善項[項目	
	水準は容当か(水準保証	⊞				設定水準:			5 or 1				
(2)	古橋に学科をいは教科にわた評価点を評価点を評価度 定水準等価理由希乃する。 設定水準等特をいは教科でのためたのを記入する 評価点は、学科をいは教科でのためたのを記入する 評価点は、学科をいは教科において答案等なごには (安当5. 安当石丸いい)	· 14 · 15 · 16 · 21 · 21 · 21 · 21 · 21 · 21 · 21 · 21	平価点を 評・ たものを記/ C答案等など	価理由欄は設 人する ざにより探点する		技術士 1 次試験 評価理由: 合格者全員を打	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	技術士 1 次試験 評価理由: 合格者会員を技術士1次試験問題以上の水準で 会校 ネポラー・2	ſΟ				
						日付のでして	စိ						
#	講義時間数は単位時間数以上か 講義時間数と単位時間数を右欄に記	数以上を右欄に	:か. :記入する.	. 単位時間数未	_	講義時間数: 単位時間数:	26.67	時間	5 or 1				
時間数 ³⁾	2 満の場合には田中記載する。 講義時間数は、学年成績総合評価表から東記する。 評価点は、単四時間数以上の場合:6、単四時間数 台:1とする。	3. 総合評価 上の場合	表から転記::5,単位時	3すること . 排数未満の場		理 由(単位	由(単位時間数未満の場合のみ記入する	うのみ記入する):	ۍ				
[学年成績の「評価方法」が具体的な内容 3 れているか。 評価理由を右欄に記入する	:」が算 8.	体的な内	容で記載さ		試験と課題の ている.	試験と課題の評価割合をパーセンテ ている.	-センテージで示し	2				
メバレン	シラパスに沿って授業を実施したか. 4 右欄に授業評価アンケート結果(設問4の点数を記入、3 験実習科目では記入不要)と評価理由を記入する.	を実施した結果(ご	5 したか . 設問4の总 地を記入する	数を記入,其	設問4 4.79	耳ぼシラバス	まぼシラバス通りに実施した	زار	2				
计名言证人用	シラバスに記載されてい より評価したか. 評価理由を右欄に記入する	唱 るい 。 る. る	価方法と	:評価基準に		シラバス通り	ラバス通りに評価した.		5				
=	不明瞭な評価項目はないか 評価理由を右欄に記入する.	1,11h.				不明瞭な評価	不明瞭な評価項目は無い.		2				
目標達成	学習・教育目標を達成させることができた 右欄に授業評価アンケート結果(設問3の点数)と を記入する.	させる - - - 	ことがで 設問3の点	ぎたか. 数)と評価理由	設問3 4 26	字習・教育目標 業平価アンケー な部分は一部ま	B-21はまままでき ト結果が示すとお だ達成できていない	予留・教育目標B-21はほぼ達成できたと考える。ただし、授業・平価アンケート結果が示すとおり、学習到達目標の細かがあける一部まだ達成できていないと思われる。	授 4				
O :	投業乃書に取り組んだか・学生の埋解を助けるための工夫をしたか。 めの工夫をしたか。 機関に業業師面アケート結果限問!の点数:総合的満 足段と評価理由を記入する・実施した具体例を下欄に記入す	カ、字 (カ) () () () () () () () () ()	:生の理解 設問16の点 」た具体例8	. 学生の埋解を助けるた !果(設問16の点数:総合的満 実施した具体例を下欄に記入す	或問16 4.5	可能な限り指 改善できる点	ξ業改善に取り% ₹はあると考え!	内能な限り授業改善に取り組んだが,まだまだ 改善できる点はあると考えられる.	4				
(授業改善)	具・講義で使う行列演算について細かな部分まで解説し 体・学生が理解し易い説明・解説を心がけた。 例・講義ノートを修正し、構造力学と対比させ形の講義	算に の 説明, は	いて組か解説を心値力学と	な部分まで がけた. 対比させ形(解説し, 7講義を	/分まで解説し,学生の理解を助けた た. ;させ形の講義を実施した.	を助けた.						
資料保存	9 学年成績を算出するための資料が全 り13か、 評価理由を右欄に記入する.	めの資欄に記入	(料が全て 、する.	て保存されて	/	全ての資料を保管マ	11	ュアル通りに保管した.	2				
1) 設問1 1:全。 2) 設問 3	設問1と2を除く評価点は、以下の目安により探点する 1:全く満たされていない.2:不十分である.3:かなり満設問1(水準)では,学科または教科における評価点と評額91個元課報時の議議時間数いトの場合	安によ である 1におけ い時間数	:の目安により探点する (十分である.3:かなり消 (数科における評価点と引 (単位時間数N/Lのほる		1る・4:大 3載する・ 問物主達の	6たされている、4:大体満たされている 作価理由を記載する、評価点は、妥当:5 に 当代性理判を主流の担ぐ、1アエス	.1る.5:十分満たされている 当:5, 妥当ではない:1とする	(左れている.)					



(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケート結果とそれによる教員の自己評価,公開授業・授業参観による授業観察報告書と公開授業自己評価報告書,答案や課題などの学年成績の評価根拠,学年成績の評価方法を示した学年成績総合評価表が収集・蓄積している。授業評価アンケートや授業公開・授業観察などにより教育の状況を点検・評価し,改善・向上に繋げるための体制が整備されている。

観点9-1- 学生の意見の聴取(例えば,授業評価,満足度評価,学習環境評価等が考えられる。)が行なわれており,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

授業評価アンケート(資料9-1--1)により,当該教科に対する授業評価,満足度評価に加え,意見や要望を聴取している。このアンケート結果を集計・分析し(資料9-1--2),これらをもとに教科担当者が自己評価して授業改善策などを学生にフィードバックしている(資料9-1--1)。さらに,準学士課程4,5年と専攻科課程では,授業評価アンケート結果に基づいて自己点検を実施し「教員自己点検表」にまとめ,教育システム点検検討部会により点検・評価を受ける(資料9-1--6)。

平成17年度に学生意見箱が設置され,学生意見箱に寄せられた学生意見書による意見・要望(資料 9 - 1 - - 3)を受けている。改善例として,図書館の自習用パソコンを増設するとともに,ネットワーク環境の整備など学習環境の改善を実施している。

あなた自身について	5 *11E *2E3	4 (18)		ABVED BOOM	
①あなたはこの授業を理解するために努力した。	(D)	GD.	CD.	(D)	a
②あなたは授業中の自分の学習態度が良好だったと思う。	(D)	0	an an	(D)	g
③あなたはこの授業の学習到達目標を達成できた。	(D)	0	OD.	(D)	d
② この授業科目について、座学またはスポーツ科学は2-1に、実験す 2-1座学またはスポーツ科学	ミ習は2-2	に記入	してく	ださい。	
④この授業はシラバスに沿っておこなわれた。	00	0	0	Ф	d
⑤この授業はあなたの能力・技術レベルに合っていた。	(D)	Œ	Ф	00	0
⑥この授業で得たものは多かった。	Ф	@	Ф	Ф	0
⑦試験は授業で習った内容を反映していた。	00	0	0	00	-
⑥課題、提出物、試験結果の解説や添削は、授業又は実技の理解に役立った。	0	Œ	Œ	00	10
⑨自分の授業態度や能力から、自分の成績は納得できる。	Φ.	@	(D)	0	g
2-2実験実習					
母この実験の内容を理解できた。	Φ.	Ø.	(D)	Ф	100
印この実験を行って得たものは多かった。	0	00	00	00	d
担当教員について					
位担当教員の話し方は聞き取りやすかった。	(D)	0	(ap	00	10
印担当教員の説明、板書、ブリント等は授業や技術の理解に役立った。	(D)	æ	Ф	Œ	0
日投業中または放課後、学生の質問に対する担当教員の対応は適切だった。	00	(3)	Œ	00	10
移担当教養は熱心に指導に取り組んでいた。	0	00	0	Œ	0
総合的満足度について					
(6)この授業は総合的にみて、良い授業だと思う。	CD.	0	0	(D)	Lis
オプション項目(担当教員のオリジナル設問)					
0	0	(30)	(D)	(1)	10
9	0	0	0	0	0
9	Œ	00	Œ	Ø	0
	Φ.	Œ	0	D	d

資料9-1--2

授業評価アンケートの集計と分析

表2. 平成16年度と平成17年度の評価点(全科目の平均)の比較

	平成 17 年度アンケート項目	平成 17 年度 評価点	平成 16 年度 評価点	評価点の差 (†:上昇)
1	あなたはこの授業を理解するために努力した。	4.08	3.45	0.64 †
2	あなたは授業中の自分の学習態度が良好だったと思う。	3.85	3.45	0.40 †
. ③	あなたはこの授業の学習到達目標を達成できた。	3.78	. 3.27	0.51 †
4	この授業はシラバスに沿っておこなわれた。	4.23	3.46	0.77 †
(5)	この授業はあなたの能力・技術レベルに合っていた。	3.81	3.35	0.46 †
6	この授業で得たものは多かった。	4.16	3.58	0.58 †
0	試験は授業で習った内容を反映していた。	4.36	4.10	0.27 †
(8)	課題、提出物、試験結果の解説や添削は、授業又は実技 の理解に役立った。	4.10	3.79	0.31 †
9	自分の授業態度や能力から、自分の成績は輸得できる。	4.13	対応無	
120	担当教員の話し方は聞き取りやすかった。	4.19	3.55	0.64 †
(13)	担当教員の説明、板書、ブリント等は授業や技術の理解 に役立った。	4.20	3.48	0.72 †
10	授業中または放課後、学生の質問に対する担当教員の対 応は適切だった。	4.22	3.69	0.54 ↑
13	担当教員は熱心に指導に取り組んでいた。	4.44	3.90	0.54 †
160	この授業は総合的にみて、良い授業だと思う。	4.25	3.63	0.62 †
	総平均	4.13	3.39	0.73 †

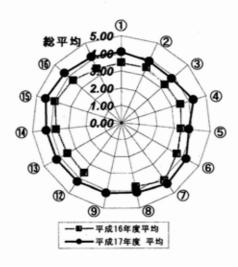


図1. 平成 16 年度と平成 17 年度の各項目 の平均の比較

(出典 平成17年度専攻科における授業評価アンケート「集計結果と自己評価」)

資料9-1--3 学生意見箱に投函された学生意見書の受付一覧

	手度 巫母口	辛日. 亜胡学	쓸 취	学年	対応	加丽.同學
_	受付日	意見·要望等	学科		対応	処理·回答
1	9/12	寮のインターネット利用について	情報工学科	5	察務主事	回答
2	9/12	夏、冬休みの期間について	環境都市工学科	4	学生課	非
4	9/20	学内パソコンの充実について	機械工学科		学術情報教育センター長	回答
		バイク通学について 図書館2階のトイレの手洗い場石け	不明	不明	学生課	回答
5	10/3	ん液について	環境システム	1	会計課	処理
		教室の机、イスの座り心地について	機械工学科	3	会計課	回答
	11/28	盗難多数について	物質工学科	3	学生課	回答
8	40/=	喫煙について	機械工学科	3	学生課	非
9	12/5	盗難について	不明	不明	学生課	回答
10		盗難について	不明	不明	学生課	回答
11		盗難について	不明	不明	学生課	回答
12		Webclassの有効活用について 自動販売機の温かい飲み物につい	情報工学科	4	学生課·情報教育演習室長	回答
13	12/12	T	物質工学科	1	会計課	処理
14		教室の暖房について	不明	不明	学生課	回答
15		盗難について	不明	不明	学生課	回答
16		盗難について	不明	不明	学生課	回答
17		盗難について	不明	不明	学生課	回答
18		(意味不明)	不明	不明		非
19	12/26	図書館のPC内プログラムについて	不明	不明	庶務課·図書館長	処理
20	1/23	100分授業について	不明	不明	学生課	回答
21		警察の使用について	不明	不明	学生課	#
22	1/30	教官についての要望	機械工学科	5	庶務課	非
23	2/6	学生への対応について	不明	不明	学生課	非
24		休憩時間を5分長(して欲しい	不明	不明	学生課	回答
25		プログラミング室をもっと長〈利用し たい	不明	不明	学生課	回答
26	2/13	授業時間の45分から50分への変 更について	機械工学科		学生課	回答
27		過去の試験問題をWebclassでも見 られるようにしてほしい	情報工学科	3	学生課·情報教育演習室長	回答
28	2/27	朝のSHRを早く始めて、帰りを早くし て欲しい	情報工学科	4	学生課	回答
29	3/6	テスト返却期間について 50分授 業に対する授業数削減について	不明		学生課	非
30		野球部の部費が多すぎではないか という意見	機械工学科	3	学生課	非
31		授業時間50分に対する再考の要 望	機械工学科	1	学生課	回答
32		再試情報をWebclassに掲示してほし い	情報工学科	4	学生課	回答
	3/13	入り口の案内板を直してほしい	情報工学科	4	会計課	処理
33		教官の不当な合格判定の噂につい	不明	不明	庶務課·学生課	回答
33 34		τ	小明			
	3/20	て 受付No.34の回答を出してほしい	機械工学科	5	庶務課·学生課	#

(平成 17 年度 36 件)

平成	1.18年度	₹(抜粋)				
	受付日	意見·要望等	学 科	学年	対応	処理·回答
1	4/17	休み時間が5分では短い	環境都市工学科	5	学生課	回答
2	4/24	4Jの教室のチャイムが鳴らないので対 処してほしい	情報工学科	4	総務課	処理
3		売店にエクレアをおいてほしい	電気電子工学科	1	学生課	回答
4		専体協に出られるようにしてほしい	環境都市工学科	2	学生課	回答
5		休み時間について 学生への対応について	物質工学科	4	学生課	非
6	4/25		不明	不明	学生課	#
7	5/1	暖房が暑いので調節してほしい	機械工学科	4	総務課	処理
8	3/1	5分休みを10分休みにしてほしい	電気電子工学科	1	学生課	非
9		売店にイチゴオレの500ミリリットルを	不明	不明	学生課	非
	5/15	おいてほしい	7149	小阳	-	
10	3/13	(意味不明)	7.00	7.00	6A\75+⊞	非
11		水飲み場を直してほしい 留学生も専体協に出られるようにしてほ	不明	不明	総務課	処理
12		しい 低学年棟2階非常口についているもの	環境都市工学科	3	学生課	学生取り下げ
13		を撤去して欲しい	環境都市工学科	5	総務課	回答
14		部活動の大会出場数を増やしてほしい	環境都市工学科	4	学生課	回答
15	5/22	学生への対応について	不明	不明	学生課	非
16		体育館をワックスがけしてほしい 売店にメロンパンをたくさんおいてほし	環境都市工学科	3	総務課	回答
17		L)	物質工学科	1	学生課	非
18		売店にフルーツ牛乳をおいてほしい	情報工学科	4	学生課	非
19		3階の階段の扉を直してほしい 部活動の大会出場を学校としてなんと	電気電子工学科	2	総務課	処理
20		かしてほしい	環境都市工学科	4	学生課	回答
21		(意味不明)3件				非
22	5/29	学生課の前の時計がほしい	不明	不明		非
23		学食のカツをもっと良いものにしてほし い	情報工学科	4	学生課	回答
24		2005年度の試験問題は公開されない のか	情報工学科	5	学生課	回答
25		学食をより充実させてほしい	不明	不明		非
26	6/5	売店にメロンパンを増やしてほしい	物質工学科	1	学生課	非
27		授業の進め方について	情報工学科	2	学生課	非
28		授業の進め方について	情報工学科	2	学生課	非
29		授業の進め方について	情報工学科	2	学生課	#
30		授業の進め方について	情報工学科	2	学生課	#
31		授業の進め方について	情報工学科	2	学生課	#
32	6/12		情報工学科	2	学生課	回答
33	0/12	部活動の大会出場数の減少について 専攻科棟に自動販売機を設置してほし	生産システム	1	学生課·総務課	回答
34		教員について	不明	不明	于土林 洲山刀麻	#
	6/19					#
35			電気電子工学科	3		
36 37	7/3	体育祭の開催について 喫煙や違法駐車に厳しく対処してほしい	情報工学科 環境都市工学科	4	学生課 学生課	回答
38		黒板消しクリーナーをチョーク受けにつ	環境師市工学科 情報工学科	2		
		なげないでほしい			学生課	回答
39	7/:-	ブールの屋根の雨漏りを直してほしい 食堂にアリが発生しているので対処して	機械工学科	3	総務課	非
40	7/18	ほしい 32教室の隣の女子更衣室をきれいにし	情報工学科	4	学生課·総務課	回答
41		てほしい テストと新人戦の日程が同じ場合につ	環境都市工学科	不明	学生課	回答
42		lit.	物質工学科	2	学生課	回答
43		週去の正期試験問題の公開につい	環境都市工学科	1	学生課	回答
44	8/28	T	情報工学科	5	学生課	回答
45	9/4	教員の学生に対する対応について	不明	不明	学生課	回答
46		出席簿の更新について	情報工学科	5	学生課	回答
47		授業及びテストの日程について	不明	不明	学生課	回答
48		事務職員について プログラム演習室の使用時間につ	不明	不明	総務課	処理
49	9/11	いて	物質工学科	3	学生課	回答
50		試験の解答用紙のコピーを返却してほ しい	不明	不明	学生課	回答
51		全国ハンドボール大会応援のお礼	物質工学科	3	学生課	回答
52	9/25	期末試験の試験時間について	情報工学科	1	学生課	#
	J, 20				2	, 7

(平成18年度 92件)

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケートにより当該教科に対する学生の意見や要望を聴取し、自己評価や点検・評価 に反映させている。また,学生意見箱により学生の意見や要望が聴取されており,学習環境の改善 などの検討に反映されている。

観点9-1- : 学外関係者(例えば,卒業(修了)生,就職先等の関係者等が考えられる。) の意見が,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

卒業生と企業を対象にしたアンケート調査を平成16年度に実施し、本校の学習・教育目標や、企業が本校学生に求める学力や資質などについて意見を聴取している。このアンケートの分析結果は報告書(資料9-1--1)としてまとめられ、平成17年4月に行ったJABEE対応教育プログラム学習・教育目標の改訂に反映している。

平成17年度には外部評価委員会により外部評価を受け、寄せられた答申書(外部評価意見書)(資料9-1--2)を含む「外部評価報告書」をまとめ公表している。さらに、平成18年度には答申書の内容を踏まえて自己点検・評価を行い、自己点検・評価報告書(資料9-1--3)をまとめている。

	函館コ	業高等専門学校	「企業アンケート」	回答用紙	
			女育改善プロジェクト―	_	
	※回答欄の	数字を○で囲むか、	() 内や空欄に文章	*等でご記入下さ	V'0
平成 16 年度					
函館高専卒業生・企業対象 アンケート報告書	1. 貴社は産業別では次				Date on the
777 1444	①製造業		③電気、ガス、7		1)建設業
	⑤情報サービス業	⑥その他の	サービス業	②卸・小売り業	
	⑧その他()		
	2. 函館高専からの採用	実績(本科卒業生の	人数)を、選択肢からお	3選び下さい。	
平成17年3月 函館工業高等専門学校	①0名 ②1	名 ③2名	④3~5名	⑤5~10 名	⑥10 名以
運営委員会 教育システム点検検対部会 JABEE 対応部会	※函館高専の卒業生	の採用実績がなけれ	ば、4. へ進んで下さい	` ₀	
	3. 函館高専の本科卒業	生に対し 平均的な	仕事に対する経癌(数3	(成績) について	ア 2世紀まから
	び下さい。	エにかし、十二月	T-4-1-12 2 - O S.T.IM (20)	SACHE IC JOIC	MEDICAL DI
	①非常に不満	②不満	③普通	④満足	⑤非常に満
	071 111-1 117	0.114	011-2	O IA/C	(S)1111-14
	4. 函館高専の教育の中	で、次の項目に関連	する科目の優先順位をつ	つけるとしたら、	告社ではどの
	になるでしょうか。	優先順位の高い扉		りけるとしたら、	
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の訓	優先順位の高い扉 接、専門の講義、専	番にお示し下さい。	のけるとしたら、 (() 依
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の訓(B) 人文科学、社会科学系	優先順位の高い扉 接、専門の講義、専 の講義	番にお示し下さい。 『門の実験実習	Oけるとしたら、 (() 位
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の語 (B) 人文科学、社会科学系 (C) 情報系処理技術やコン	優先順位の高い原 議義、専門の講義、専 の講義 ピュータの基礎知識	番にお示し下さい。 「門の実験実習 はに関連する科目	のけるとしたら、 ((()位)位)位
	になるでしょうか。 (A)数学・自然科学系の語 (B)人文科学、社会科学系 (C)情報系処理技術やコン (D) 創造的な問題解決能力	優先順位の高い厚 義、専門の講義、専 の講義 ビュータの基礎知識 の育成に関連する科	番にお示し下さい。 「門の実験実習 はに関連する科目	のけるとしたら、 ((() 位) 位) 位) 位
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の計(B) 人文科学、社会科学系(C) 情報系処理技術やコン(D) 創造的な問題解決能力(E) 卒業研究または特別研	優先順位の高い厚 義、専門の講義、専 の講義 ピュータの基礎知識 の育成に関連する科 究	番にお示し下さい。 「門の実験実習 なに関連する科目 計目 (卒業研究も含む)	(((()位)位)位)位)位
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の計(B) 人文科学、社会科学系(C) 情報系処理技術やコン(D) 創造的な問題解決能力(E) 卒業研究または特別研(F) 日本語による記述力・	優先順位の高い厚 義、専門の講義、専 の講義 ビュータの基礎知識 の育成に関連する科 完 の の の の で の の の で の の の の の で の の の の の の の の の の の の の	番にお示し下さい。 「門の実験実習 なに関連する科目 計目 (卒業研究も含む)	((((()位)位)位)位)位
	になるでしょうか。 (A) 数学・自然科学系の計(B) 人文科学、社会科学系(C) 情報系処理技術やコン(D) 創造的な問題解決能力(E) 卒業研究または特別研	優先順位の高い厚 義、専門の講義、専 の講義 ビュータの基礎知識 の育成に関連する科 完 の の の の で の の の で の の の の の で の の の の の の の の の の の の の	番にお示し下さい。 「門の実験実習 なに関連する科目 計目 (卒業研究も含む)	(((((()位)位)位)位)位

資料9-1--2 外部評価委員会による答申書(外部評価意見書)抜粋

答:申:書(外部評価意見書)

函館工業高等専門学校長 殿

下記のとおり答申いたしますので、よろしくお願いいたします。

第1章 教育理念・目標について

教育理念や教育目標は適切であり、理念・目標に向かって積極的に教育改善に 取り組んでいることは評価できる。また、18年度 JABEE 受害に向けて準備が 進められており、高品質の教育システムを確立しようとしている姿勢も評価でき る。地域社会や企業の発展への貢献については、地域の経済情況を反映した。 より強固なシステム造りが必要である。

第2章 本料の教育活動について

社会の変化に合わせて学科の改組を実施し、道南地域における工学系必等教育 機関としての役割を果たしてきたことは評価できる。また、PBLやインターシップ 制度の導入、ロングホームルーム、新入生宿泊研修。父母懇談会等も、教育効果 の向上や、学生支援第の拠化に貢献していて評価できるし、就職内定率、大学・ 専攻科への進学率も100%であることは評価できる。今後は進学基準の厳格化。 提索型社会を走向する、環境に促進したものづくり教育、それに5年一貫教育の メリットを包かした日本語・外国活教育のさらなる光実が望まれる。

第3章 専攻科の教育活動について

専攻科の構成それに、深い専門性の追求と複合分野への対応力のあるより実践的な 技術者の育成を目指した教育目標はともに適切であり評価に値する。また、木料と の連携、PBLの導入、授業アンケートと授業改善への努力は評価できる。今後は、 専攻科のPR、本料と専攻科団の授業科目の流れの明確化が必要であるし、教員の 学位取得率の向上とJABEE プログラムの認定により専攻科教育が一層充実する ことが期待される。

第4章 学生の受入れについて

少子化の進行する中。アドミッション・ポリシーの制定とその公表方法は適切であるし、広報活動も学校説明会、学校見学会、一日体験学習と多様であり、その努力は評価できる。また一般選抜の他に、推薦人が、複数受験、社会人入試制度など多様な選抜方式を取り入れていることも評価できる。留学生については、東南アジアなど関発途上の国々からが多いが、文化風音の違いを乗り越え、教育活動を展開してきた事

と宿舎でのきめ細かい対応は評価できる。

第5章 学生支援について

入学時の宿泊研修及びガイダンスも徹底しているし、オフィスアワーの設定、カウンセリングルームの設置等学生の相談機能も充実していて評価できる。また、学生支援組織(育成会)からの援助を有効に活用し、学生の置外活動支援、研究成果を表会参加支援を積極的に行っていることは評価できるし、それらの活動を支える組織の充実も評価できる。さらに、英検2級等資格を取得した学生に対する特別な措置も、学生の数学定款を高める上で有効である。学生の数能については、一応100%となってはいるが、今後は全校挙げての支援が必要であると思われる。

第6章 施設・設備について

施設の老朽化に対して、きめ細かい点検がなされ、平成 14。15 年には校舎も改修 されていて、充分とは言えないまでも整備が行き届いている点は評価できる。また、 設備については最先端の教育に沿ったプログラム族習名、CAD 族習名、実習工場、 地域共同テクノセンターが整備されているし、障害者に対する各施設の設置も評価 される。今後は、情報処理関連設備の利用時間延長、固能市内の高等教育機関との 連携による設備の共同利用の権権、総合グランドの最份整備が望まれる。

第7章 教育改善活動について

FD 活動、学生の授業理解アンケート調査と結果のフィードバック、教育改善研修会 の実施、父母授業参観と懇談会の実施、校長・創校長による授業参観とそのフィード バック等、教育改善面における自己点検の基本サイクルが構築されていて、超級的に 教育を改善する仕組みが機能していることは高く評価できる。

第8章 管理運営について

地域に果たす役割を重視した個性ある高等教育機関を目指し、校長のリーダーシップ を発揮できるよう補佐体制・整備されているし、多様な委員会を設けて学校運営の 円滑化と教育効果の向上を図っていることは評価できる。また。教員の配置も長期的 な展望に基づいた配置となっているが、今後は、全教員が専攻料を担当できるよう採 用に際して充分な配置が必要である。

第9章 研究活動について

教育負担が多い高等において、各教員が研究成果を挙げることは、かなりの困難が 作うと同時に努力が必要となることは理解できるが、他の高等教育機関との差別化 や地域企業との連携を強化するためには、各教員がそれぞれの研究分野で研究成果 を挙げていくことが重要である。その意味で、学科模断型のプロジェクト研究の ように組織的に研究テーマ等を決めて、組織的に研究強化に強めていくことは重要 である。また同時に、科研費へ積極的な申請、外部研究金の積極的な導入について も一層の努力が開榜される。

(出典 外部評価報告書(平成18年3月))

資料9-1- -3



自己点検・評価報告書目次抜粋

第1章	教育理念・目標	
1.1	教育理念と本校の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.2	教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.3	函館高専の概要と将来展望 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第2章	1.11 0-11	
2.1	学科の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2.2	各学科および一般科目の教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
2.3	教育課程の編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
2.4	授業計画書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	1
2.5	成績評価・単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	2
2.6	特別活動	3
2.7	指導体制 1	3
2.8	保護者との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	4
2.9	教育の成果 ・・・・・ 1	5
2.10	進路の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	6
第3章	専攻科の教育活動	
3.1	専攻科の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7

(出典 自己点検・評価報告書 平成18年度の改善状況

(分析結果とその根拠理由)

卒業生・企業対象アンケートにより卒業生と企業の意見を聴取し,JABEE対応教育プログラム学習・教育目標の改訂などに反映されている。外部評価委員会から寄せられた意見は,自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点9-1- : 各種の評価(例えば,自己点検・評価,教員の教育活動に関する評価,学生に よる達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上,改善に結び付けら れるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策 が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の「教育点検・改善システム」(資料9-1--7)は「目標改善のループ」と「教育改善 のループ」から構成される。学校全体の自己点検・評価は、自己点検・評価部会が実施して自己点 検・評価報告書(資料9-1--3)にまとめ,5年毎に外部評価委員会により外部評価を受ける。

「教育改善のループ」では,授業評価アンケート,授業公開・授業参観,授業担当教員による 「教員自己点検」(資料9-1- - 1), 試験問題とボーダーラインの答案の水準を点検する「水 準チェック会議」(資料9-1- - 2)が実施される。これらは「教員自己点検表」(資料9-1

- 6)にまとめられ,教育システム点検検討部会により点検・評価を受ける。この結果は「教 員自己点検点検結果報告書」としてまとめられ,運営委員会の審議を経て,教員会議や学内説明会

(資料9-1--3)により点検結果と改 善指示が全教員に周知されるとともに、各 委員会に検討委託され,具体的かつ継続的 に改善が図られる仕組みとなっている。

準学士課程4,5年と専攻科課程の全教 科について,平成16年度より継続的に教育 点検と評価が実施されており,次の観点9 - 1 - に示すように多くの改善が図られ ている。

また,準学士課程1年~3年については, 平成18年度実施分の全ての授業科目につい て教育システム点検検討部会による教育点 検が実施されている(資料9-1- -4)。

資料9-1-4-1

教員自己点検の周知文 抜粋

送信者: "WATANABE Chikara" (cwatan@hakodate-ct.ac.jp)

ate-ct.acjp) 送信日時: 2007年3月12日

教育システム(後期答案保管・教員自己点検の実施について) 件名:

教員, 非常勤講師 各位

(本メールは、全職員に送付しています。 ご不要の場合には、お手数ですが削除願います)

> 教 務 主 事 攻科 長 石井 教育システム点検検討部会委員長 森田 孝

本科4・5年および専攻科の通年・後期科目において、教員自己点検を実施 いたします、試験答案等を保管マニュアル通りに整理され、学年成績総合評価

表、教員自己点表とともに、以下の要領でご提出下さい。 提出日までに、各学科・教科において、水準チェック会議を実施して頂きま すようにお願いいたします。本料5年生の追認試験、専攻科の再評価に関しま しても水準チェックが必要ですので、まだ実施されていない場合には同時に実 施していただきますようにお願いいたします。

また、本科4,5年の前期修了科目の成績を変更する場合や、専攻科の保留し てある成績を変更する場合には. 「前期終了科目・学年成績変更マニュアル」 に従って提出いただきますようにお願いいたします。

○教員自己点检

【提出締め切り】

提出締め切り】 3月23日(金)予定 (まだ授業評価アンケート結果がでておりません、アンケート結果 が締め切り日に間に合わない場合には、締め切り日を変更する予定です)

【提出先】 各学科の教育システム点検検討部会委員 【提出物】 答案等を整理した保管ファイル(「保管マニュアル」を参照) 学年成績総合評価表と教員自己点検表の印刷物(各1部) (EXCELファイルもご提出顧います)

(出典 教員自己点検周知メール)

資料9-1--2

水準チェック会議マニュアル

平成 17 年 9 月 22 日,平成 18 年 9 月 8 日修正

JABEE 対応部会・教育システム点検検討部会・教務委員会・専攻科委員会

学科・一般科目における水準チェックに関する注意事項

「教員自己点検表」により教員自己点検を実施するまえに,学科・一般科目において各教科の水準チェックを実施して下さい.実施にあたっては以下の点に注意して下さい.

- (1) 学科あるいは一般科目の全教科について実施して下さい.専攻科の教科は,教科担当者が所属する学科で実施して下さい.また,本科の応用数学や応用物理は専門学科で実施して下さい(専門学科の学科会議に教科担当教員が出席して実施).
- (2) 一般科目では、教科ごとに実施しますが、提出する議事録等は一般科目としてまとめて提出して下さい、
- (3) 前期修了科目は,前期期末試験終了後の教員自己点検までに実施して下さい.その他の科目は,学年末試験終了後の教員自己点検までに実施して下さい.
- (4) 本科の学外実習と卒業研究は,学年成績の全ての評価項目(学外実習の企業評価,卒業研究の指導教員評価を除く)を複数の教員により評価している場合には不要とします.
- (5) 専攻科のゼミナール,特別実験,総合演習,特別研究は,専攻科委員会に一任する.
- (6) 実験実習科目などで,報告書などの提出物による評価項目以外に,取組に関する評価項目がある場合にはその項目の水準チェックは不要とします.
- (7) 試験問題の類似性に関するチェックも実施して下さい(再試験は本試験と違う問題であること、本試験は前年度の問題と違うこと).

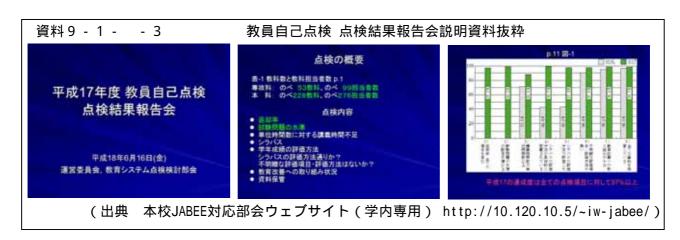
水準チェック要領

各学科において,各教科の水準を保証して頂きます.学科の複数教員により,各教科の水準が妥当かどうかを,以下の要領でチェックして下さい.

- (1) 教科のシラバスにより,授業内容を確認して下さい.
- (2) 学年成績総合評価表により,評価方法を確認して下さい.
- (3) (学年成績総合評価表の各評価項目において) 試験問題や模範解答などにより,問題のレベルが学科で定めた設定水準以上であるかどうかを判断する.
- (4) (学年成績総合評価表の各評価項目において) ボーダーラインの答案などにより、合格者全員を設定水準以上で合格させているかどうか判断する.ただし、合格基準は6割以上とします.
- (5) (1)~(4)により,合格者全員を設定水準以上で合格させていると判断した場合には5,設定水準以上と言えない場合には1と評価して下さい.また,評価理由を明確にして下さい.
- (6) 試験問題の類似性に関するチェックでは,教科担当者が昨年度の試験問題を持参してください.再試験 と本試験が違う問題であること,本試験は前年度の問題と違うことを点検して下さい.
- (7) 水準チェック実施後,学科会議の議事録を提出して頂きます.実施日,参加者,各教科の評価点と評価 理由,試験問題の類似性に関する点検結果が明確に分かるものを提出して下さい.
- (8) なお,スポーツ科学など教育目標を設定水準に用いている場合には,(3)の代わりに「学年成績総合評価表の各評価項目が設定水準(目標)に対応しているかどうか」を判断して下さい.

以上は,各学科・一般科目において必ず実施して下さい.なお,各学科において授業内容やレベル,評価方法 などを活発に議論して頂き,授業改善に発展させて頂くことを強く望みます. 以上

(出典 本校JABEE対応部会ウェブサイト(学内専用) http://10.120.10.5/~iw-jabee/)



資料9-1-低学年(準学士課程1~3年)の教育点検に関する周知文 送信者: "森田 孝" <morita@hakodate-ct.ac.jp> <all-ml@hakodate-ct.ac.ip> 宛先: 送信日時: 2007年 5月 8日 火曜日 低学年成績の点検について 件名: 教員の皆様へ cc.職員の皆様 教育システム点検検討部会 森田 先月の運営委員会にて、18年度の低学年総合成績評価表について、 当部会(教務委員会と協力)で点検することが決定されました。 そこで本日、教務委員会と当部会の合同委員会を開き、点検作業を 開始しましたので、お知らせいたします。 なお、この点検は、JABEE対応で設定しました本校の 教育点検・改善システムの流れにしたがって実施するものであります。 点検は主として以下の2点について行います。 1. シラバスに記載された通りの成績評価を行っているか。 2. 学年成績の求め方が評価方法の欄の計算式と一致しているか。 点検は部会委員と教務委員の先生方ほぼ全員で, 来週末までに 行いますが、不明点などあった場合に科目担当の先生に直接 確認することがあるかと思います。その場合は、なにとぞよろしく お願い申し上げます。 なお、点検した結果はまとめて、後日フィードバックする予定で おります。 以上、よろしくお願いいたします。 電気電子工学科 森田 孝(内線6425)

(出典 低学年の教育点検に関する周知メール)

(分析結果とその根拠理由)

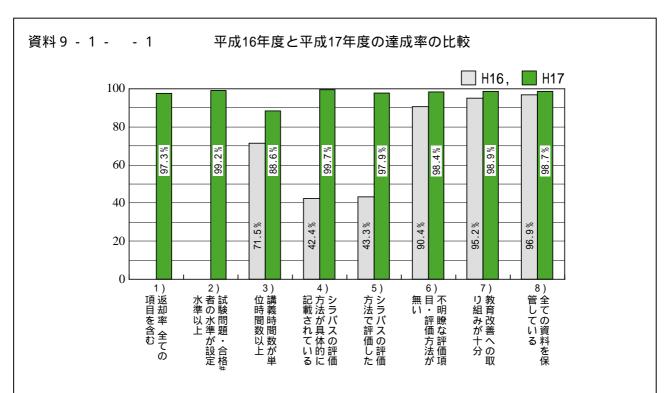
学校全体の自己点検・評価を自己点検・評価部会が実施して,5年毎に外部評価委員会により外部評価を受ける。教育改善では,授業評価アンケート,授業公開,教員自己点検,水準チェック会議の評価結果を,教育システム点検検討部会が点検・評価し,運営委員会が改善指示するという具体的かつ継続的に改善が図られるシステムが整備されている。

観点9-1- : 個々の教員は,評価結果に基づいて,それぞれの質の向上を図るとともに,授 業内容,教材,教授技術等の継続的改善を行っているか。また,個々の教員の改 善活動状況を,学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程 4,5年と専攻科課程の全教科について,観点9-1- に示した「教育点検・改善システム」に基づいて教育システム点検検討部会による継続的な点検・評価が平成16年度から行われている。平成17年度の点検結果は,答案などの返却率,試験問題の水準,講義時間数,シラバス,学年成績の評価方法,教育改善への取り組み,資料保管の点検項目に関して,平成16年度に比べ大きく改善している(資料9-1--1)。

なお,「教員自己点検点検結果報告書」は運営委員会に報告され(資料9-1- -2),学内説明会(資料9-1- -3)により点検結果が全教員に周知されている。



また,3)講義時間数(単位時間数以上)は88.6%と最も達成率が悪くなっているが,補講をしないために単位時間数以下になったのは2教科であり,その他の教科はシステム上の問題(年間行事予定での講義回数不足)によるものである.このシステム上の問題は平成16年度の点検結果報告書において指摘し,教務委員会により平成18年度の行事予定表で実験実習科目を含む全て教科で単位時間数以上の講義回数が確保できるように改善されている.したがって,この改善効果が現れるのは本年度(平成18年度)である.このことから,実質的に問題となる教科は補講をしなかった2教科であり,平成17年度の実質的な達成度は99.5%となる.

以上のことから、平成 17 の達成度は全ての点検項目に対して 97%以上に達したと言える.

(出典 平成17年度 教員自己点検点検結果報告書)

資料9-1- -2

運営委員会 議題・報告事項

平成 1 8 年度 第 3 回運営委員会 平成 1 8 年 6 月 1 2 日(月)16:30~19:00

議題

- 1. 平成18年度予算配分について
- 2. 教育充実設備費の配分方法について
- 3. 技術室運営委員会の構成委員について
- 4. 生命倫理審査委員会(仮称)の準備委員会設置について
- 5. 平成18年度教員顕彰(校長賞)について
- 6. FD活動計画書について
- 7. 教員自己点検結果報告書について(平成17年度教員自己点検点検結果報告書)
- 8. 編入学者募集に係るアドミッションポリシーについて
- 9. もの作り・人作り地域フォーラムin函館について

報告事項

- 1. 校長裁量経費共同研究報告会・新任教員研究紹介及び産学連携講演会について
- 2. 平成18年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業の採択について
- 3. 高専間教員交流制度による派遣者受入希望調書について
- 4. 教職員等の自家用自動車の業務使用に関する取扱いについて
- 5. 全国校長会議報告について

(出典 平成18年度6月12日 運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程4,5年と専攻科課程の全教科について「教育点検・改善システム」に基づいた継続的な改善活動が行われており、答案などの返却率、試験問題の水準、講義時間数、シラバス、学年成績の評価方法、教育改善への取り組み、資料保管について改善がなされている。また、教育システム点検検討部会による点検結果は運営委員会に報告され、学校として把握している。

観点9-1- : 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

専門分野における研究成果は主に卒業研究,特別研究などとして実践されており,特に専攻科課程では修了要件として学協会での研究発表を義務づけていることから,専攻科の学生一人1~2回の研究発表がなされている(資料9-1--3)。

資料9-1--1 教育方法の改善についての研究一覧

表 3.3-4 本校教員が教育改善に関して最近執筆した論文							
年度	著者	論文タイトル	発表誌				
	佐々木恵一, 佐賀美恵子, 河内三奈, 森谷健二, 小原寿幸, 天野宣敬	函館高専の学生の実態調査分析 報告	函館工業高等専門学校紀 要第 37 号				
14 年度	長谷川亮,森谷健二,喜多幸次,柳 谷俊一,山田一雅,小川陸郎	レポート作成を含めた実験指導 法の検討~電気電子工学科第二 学年における例~	函館工業高等専門学校紀 要第 37 号				
	森田孝,藤川一,小川陸郎,高田明 雄,	電気電子工学科における創造実 験の導入	函館工業高等専門学校紀 要第37号				
	天野宣敬, 佐々木惠一, 小原寿幸, 森谷健二, 河内三奈, 佐賀美惠子	「高専学生と高校生のライフス タイル調査」から見た高専教育の 問題点	論文集「高専教育」第 27 号				
15 年度	竹村雅史	本学1学年英語能力テストの結 果と分析	函館工業高等専門学校紀 要第38号				
	奥崎真理子	3年生英語表現授業報告(2)ー 専門英語への橋渡し的役割を目 指してー	函館工業高等専門学校紀 要第 38 号				
	池田誠一, 山崎俊博, 新田一夫, 富 永徳雄	釧路・函館・旭川高専における第 1学年数学共通テストの結果と 分析	論文集「高専教育」第 28 号				
	森田孝,本村真治	講義シートと演習シートを用い た回路系授業における授業改善 の試み	論文集「高専教育」第 28 号				
16 年度	奧崎真理子, 天野宣敬, 竹村雅史, 高橋眞規子, 田畑緩己	函館高専における卒研アプスト ラクト英文表記指導の取り組み	全国高等専門学校英語教 育学会研究論集第24号				
	森谷健二, 佐賀美惠子, 河内三奈, 川上健作, 佐々木惠一, 三上英司, 天野宣敬	函館高専の学生の実態調査分析 報告第二報	函館工業高等専門学校紀 要第 39 号				
	竹村雅史	技術報告書の Abstract を利用し た読解指導	函館工業高等専門学校紀 要第39号				
	蘆立徳厚	受講生のプレゼンテーションを 組み込んだ専攻科教科「環境マネ ジメント」の試み	論文集「高専教育」第 29 号				
17 年度	奥崎真理子	高専女子寮の指導体制における 女性教員の位置付け	論文集「高専教育」第 29 号				
	長澤修一・中嶋像夫	低学年における「情報処理基礎」 と「物理」に対する教科連携の試 み	函館工業高等専門学校紀 要第 40 号				

(出典 JABEE自己点検書(本文編))

資料9-1--2 論文「函館高専の学生の実態調査分析報告」抜粋

函館高専の学生の実態調査分析報告 - 4年目を迎えた学生の意識調査から -

川上 健作1 佐々木 恵一2 森谷 健二3 河内 三奈4 新田 一夫5 佐賀 美恵子6

(2006年10月13日 受理)

A Trial of Clarifying the Realities of Students at Hakodate National College of Technology -On Analysis of Four-year Comparison on Students' Lifestyle -

KAWAKAMI Kensaku¹, SASAKI Keiichi², MORIYA Kenji³, KAWAUCHI Mina⁴, NITTA Kazuo⁵ and SAGA Mieko⁶

This is the research on the actual condition of students at Hakodate National College of Technology designed and investigated by the counseling room. The purpose of this research is to clarify the changes of their lifestyle, explore their problem that they have, find out what has been hidden and suggest an open discussion for solving the mental health problem to all the faculty members. As a result of this investigation, we acquired a lot of precious information and available implications for our

Key words: Counseling Room, Mental Health, Change of Lifestyle

1. はじめに

今日、学生支援教育に対する社会からの要請は高 まってきており、特に授業改善や理解力の向上を目的 象に行った. 調査票は、学生相談室が本校カウンセラ とした FD 活動の充実は重要視されている 132). しかし, 学生の生活環境支援の観点から見ると、良好な学校生 あり、内容は全 21 間の多岐選択の質問(1 年生は 4 間 活を送る上で悩みを抱え立ち止まる者も少なくない。 そ れは, 現代の若者の悩みは多様化, 複雑化, 深刻化し ているためであり、学生に対するメンタルヘルスは以前 にも増して重要視されるようになっている。本校におい た、分析対象は平成14~17年度の1~5年生である。 ても高専生の生活実態や抱えている悩みを把握するべ くアンケート調査を行い, 高専生のライフスタイルや間 類点について分析し 50~60, さらに本校学生のみならず 市内の普通高校でも同様のアンケート調査を行い、 比較検討することで高専生が抱える特有の悩みにつ いて検討してきた 4.7). そして, 毎年校内研修会を開 催して分析結果を報告し、教員のメンタルヘルスに対す る意識の啓発を行っている.

本稿は本年度の実態調査結果の報告と 4 年間の意 誰の変化について分析したものである。

- 1 函館工業高等専門学校 機械工学科 2 同上 環境都市工学科 3 同上 電気電子工学科 4 同上 学生課 看護師 5 同上 一般科目 雅数系 6 同上 学生相談案

2. 調査概要

本調査は、函館工業高等専門学校(以下、高専)を対 一佐賀臨床心理士の助言のもと独自に作成したもので 多い), 1 間の記述形式の質問に対し回答してもらった。

本年度の調査実施日は,9月上旬(夏休み明け2週 間)に HR において学級担任の協力のもと実施した。ま 回答者数の学年別内訳(平成17年度)は図1に示す。

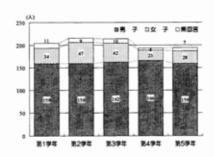


図1 学年別回答者数と男女構成

(出典 函館工業高等専門学校紀要 第41号)

資料9-1--3 専攻科学生の学協会での研究発表一覧

平成17年度専攻科2年生の学会発表実績 一覧

生産システム工学専攻2年

発表者	指導教員	題名	学会名	年月日	開催場所
飯田 伊織	切明 隆司	ディーゼルエンジンの排ガス浄化に関する研究 ~排気二段カムによる排ガス高温化実験~	日本機械学会北海道支部 第44回支部講演会	17.10.8	室蘭工業大学
大沼 和寛	石若 裕子 細胞性粘菌移動体のシミュレーション		2004年度精密工学会 北海道支部学術講演会	16.9.4	函館高専
八石和泉	東海林智也	boid を用いた細胞性粘菌移動体のシミュレーション	情報処理北海道 シンポジウム2005	17.10.7	北海道 情報大学
岡田 透	秋葉機四郎	DOHC機構における振動特性の解析	日本機械学会北海道支部 第44回支部講演会	17.10.8	室蘭工業大学
竹田 誠	山田 誠	5軸制御工作機械による3次元測定データの再現加工	2004年度精密工学会 北海道支部学術講演会	16.9.4	函館高専
田辺淳	中川 幸二	サージング数値シミュレーションへの汎用数式 処理ソフトの応用と検討	第53回ターボ機械協会総会 講演会	17.5.13	東京 学士会館
西口 裕司	古俣 和直	道南における建築用給水·給湯銅配管の孔食 発生	2005年三学協会 北海道支部研究発表会	17.2.2	北海道大学
福本 陽平	高田 明雄	Te添加によるBi-221ウィスカーの作成	平成16年度電気·情報関係学会 北海道支部連合大会	16.10.24	はこだて 未来大学
	同田 明雄	Te添加によるBi-221ウィスカーの作成	平成17年度電気·情報関係学会 北海道支部連合大会	17.10.22	北海道大学
麓 宏志	石井 良博	Rotational hysteresis による垂直磁化膜の結晶 粒間の相互作用の評価	平成17年度電気·情報関係学会 北海道支部連合大会	17.10.22	北海道大学
山本 裕人	浜 克己	移動マニピュレータの協調行動に関する研究	2004年度精密工学会 北海道支部学術講演会	16.9.4	函館高専
四家 祐介	石若 裕子	屋外環境下におけるローバの自律走行 ~ 超音波センサと方位センサを用いた制御システム の開発~	2004年度精密工学会 北海道支部学術講演会	16.9.4	函館高専
	柳谷 俊一	窒素注入されたアルミナ膜における絶縁性の解析	平成17年度電気·情報関係学会 北海道支部連合大会	17.10.22	北海道大学
鷲尾 大輔	柳谷 俊一	Li添加されたZnOの局所電子状態	平成16年度日本金属学会 北海道支部冬季講演会	17.1.20	室蘭工大

環境システム工学専攻2年

発表者	指導教員	題名	学会名	年月日	開催場所
浅野 良介	大久保孝樹	生物膜表面上のマクロ的・ミクロ的流体挙動計 測に関する研究	平成16年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	17.2.7	函館 国際ホテル
東崇宏	渡辺 力	鉄筋コンクリート構造のハイアラーキRC要素モデル	平成16年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	17.2.8	函館 国際ホテル
木 示仏	11000 八	ハイアラーキRC要素モデルに鉄筋コンクリート 床板の曲げ解析に関する一考察	平成17年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	18.2.3	札幌コンベン ションセンター
		段階載荷圧密における異なる圧密圧力による 圧密特性の比較	第45回日本地盤工学会北海道支部 平成16年度年次 技術報告会	17.2.9	函館市民会館
石上 智浩	佐野 佶房	定ひずみ速度圧密試験においてひずみ速度が 先行圧密応力に与える影響	第40回地盤工学研究発表会	17.7.6	函館国際ホテ ル
		定ひずみ速度圧密試験においてひずみ速度変 速が圧密諸特性に与える影響	第46回地盤工学会北海道支部 年次技術報告会	18.2.6	札幌市民会館
大塚 祐記	韮澤 憲吉	函館の軍用石橋に関する計測調査	平成16年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	17.2.7	函館 国際ホテル
奥山 修平	小林 淳哉	多成分元素からなる触媒探索への進化的手法 の適用	日本化学会北海道支部 2005年夏季研究発表会	17.7.23	はこだて 未来大学
甲谷 龍一	小原 寿幸	水産未利用資源の微生物を用いた有効利用方 法の開発	日本化学会北海道支部 2005年夏季研究発表会	17.7.24	はこだて 未来大学
川上比左衣	水上 正勝	微生物による海水中の重金属析出に関する実 験的研究	日本化学会北海道支部 夏季研究発表会	16.7.24	苫小牧高専

平成18年度専攻科2年生の学会発表実績 一覧

生産システム工学専攻2年

発表者	指導教員	題名	学会名	年月日
大津 祐二	川上 健作	スロープにおける歩行機歩行の解析	日本機械学会北海道支部 第45回講演会	平成18年 9月
鹿又 史年	近藤 司	生産環境における画像監視に関する基礎研究	精密工学会北海道支部学術講演 会	平成17年 9月
木下 政雄	後藤等	DCTと多重埋め込みによる電子透かし	情報処理北海道シンポジウム2006	平成18年10 月
小石 健太	高田 明雄	数値計算によるジョセフソン接合におけるカオス的発振現象の考察	平成18年度電気·情報関係学会 北海道支部連合大会	平成18年10 月
田中 光	山田 一雅	PostgreSQLを活用した遠隔計測システムの構築	電気関係学会東北支部連合大会	平成17年8月
津幡 謙介	浜 克己	動的環境下における機能分化に基づ〈搬送用 マルチロボットシステム	第7回計測自動制御学会システム インテグレーション部門講演会	平成18年12 月
波間 惇	秋葉機四郎	DOHC機構の振動現象の解析	日本機械学会北海道支部 第45回講演会	平成18年 9月
福士ありさ	本村 真治	CADデータを利用した建物群まわりの流れ解析	日本流体力学会年会2005	平成18年 9月
三橋 良太	古俣 和直	アルミニウム合金の食孔内塩化物イオン濃度の推定	2006年三学協会北海道支部 研究発表会	平成18年1月

環境システム工学専攻2年

発表者	指導教員	題名	学会名	年月日
蛯子 翼	大久保孝樹	直交選点有限要素法によるナビエ·ストークス方程式の数値解析に関する基礎的研究	平成18年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	平成19年2月
北丁	八人体子倒	汚濁小河川が流入する一般河川の流れ挙動解析 直交選点有限要素法による数値解析	第43回環境工学研究フォーラム	平成18年11 月
大上 裕之	渡辺 力	ハイアラーキ特異要素を用いた2主桁橋の局所応力 解析に関するモデル化の検討	平成18年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	平成19年2月
人工 裕之	版22 /J	2主桁橋の局所応力解析へのハイアラーキ要素の適 用	平成17年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	平成18年2月
太田 昂平	大久保孝樹	生物膜表面凹凸に関する基礎的研究	第43回環境工学研究フォーラム	平成18年11 月
風晴あい子	小林 淳哉	迅速触媒開発に対するコンビナトリアルケミストリー の適用	化学工学会室蘭大会	平成18年8月
川合 友也	韮澤 憲吉	函館軍用石橋の石積みに関する計測調査	土木学会平成18年度全国大会	平成18年9月
川尻・峻三	澤村 秀治	超音波伝播速度による膨張コンクリートの剛性変化 推定モデルに関する研究	平成18年度土木学会北海道支部 年次技術研究発表会	平成19年2月
川凡 吸二	净们乃归	超音波伝播速度による膨張コンクリート強度発現 特性の評価	土木学会第61回年次学術講演会	平成18年9月
川村 龍平	川口 貴之	ベンダーエレメント付予圧密容器の開発	土木学会北海道支部平成17年度 年次技術研究発表会	平成18年1 月
高坂 匠	上野 孝	フルーツ缶詰シロップ廃液からの乳酸生産	日本化学会北海道支部2006年 夏季研究発表会	平成18年7月
佐々木香奈子	平沢 秀之	斜角を有する2主桁橋における横構の 補剛効果について	土木学会北海道支部 平成17年度年次技術研究発表会	平成18年2月
島田 康弘	水上 正勝	ウラン鉱床凝灰岩層における水/岩石相互作用の 実験的研究	日本化学会北海道支部2005年 夏季研究発表会	平成18年7月
綱島 豊容	伊藤 穂高	新しい低刺激高分子抗菌剤の開発	日本化学会北海道支部 2005年夏季研究発表会	平成17年7月

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

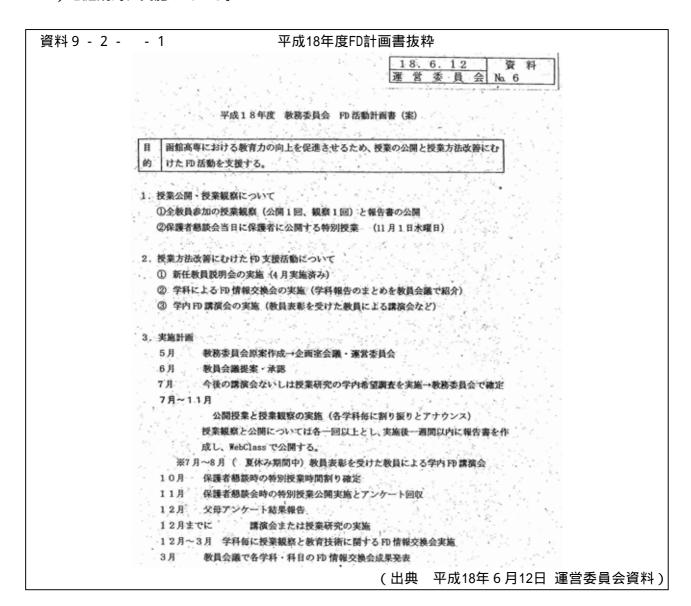
教育方法の改善についての研究を教育に取り込んでおり,特に「函館高専の学生の実態調査分析」の研究はメンタルヘルスケアなど学生指導の改善に反映している。専門分野における研究は特別研究などに反映されており,研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点9-2-: ファカルティ・ディベロップメントについて,組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校のFD活動は,教務委員会とFDワーキンググループが主導・推進している。教務委員会が作成するFD活動計画書(資料9-2--1)は運営委員会に提出され,このFD活動計画書にしたがって,学内FD講演会(資料9-2--2),授業公開・授業参観(資料9-1--2),FD情報交換会(資料9-2--3)が組織的に行われている。

さらに、授業評価アンケートによる自己評価(資料9-1--1)や、学生指導やカウンセリングなどの資質向上のために厚生補導研究協議会とカウンセリング研究協議会(資料9-2--4)を継続的に実施している。



資料9-2--2

学内FD講演会一覧

表 3.3-2 最近開催された教職員向けの FD に関する学内講演会等の一覧

開催月日	講演会、研修会テーマ等	2 8 9ti
	高専シンポジウム「高専の当面する課題」	国専協会長
16年1月	~高専の独立行政法人化とこれからの高専教育, 産学連携~	他高專学校長
		他高專教員
16年3月	「名馬の見抜き方」〜自分を支える存在としての人材登用	本校教員
16年 3月	JABEE説明会	本校教員
	ひとづくり・ものづくりによる学科・学校の活性化	他高專教員
16年 4月	授業改善講習会	学生課長
	JABEE 試験答案等の保存に関する説明会	本校教員
16年8月	技術者倫理教育に関する講演会	大学教員 他
16年 9月	JABEE 自己点検・学年成績総合評価表作成に関する説明会	本校教員
	シラバス(授業計画書)作成説明,検討会	本校教員
16年12月	旭川高専における JABEE への取り組みについて	旭川高専専攻科長
17年 1月	認証評価・自己点検評価 説明会	本校教員
47 fr o B	FD・SD 進路指導に関する講演会	大学教員
17年 3月	進級基準の変更の説明会	本校教員
	平成16年度教育点検結果および「複合型システム工学」プログラム	本校教員
17年 7月	達成度評価法説明会	
17年11月	JABEE講演会	日本工学教育協会専務理事
17年12月	機関別認証評価講演会	大学評価・学位授与機構教芸
18年1月	苫小牧高専におけるJABEEへの取り組みについて	苦小牧高専専攻科長
18年6月	教員自己点検・点検結果報告会	本校教員

(出典 JABEE自己点検書(本文編))

資料9-2--3 平成18年度機械工学科 FD情報交換会議事録抜粋

平成 1 8 年度 機械工学科 F D情報交換会議事録 (記録:本村 FDWG 委員)

日 時: 平成19年3月12日 11:30~

場 所:機械総合演習室 (2F)

出席者: 祐延、中川、切明、浜、近藤、山田、古俣、川上、中村、本村 (欠席 秋葉)

1. 授業公開について

1) 実施スケジュールについて

H17 年度の検討(学生へのフィードバックを考慮)に基づき、今年度は夏季休業前(7/4~18) で実施した。 各自、観察報告を受け以降の授業へ参考にすることができ、来年度も今年度同様の時期に実施することとした。

2) 学生へのフィードバックについて

授業観察報告の指摘事項について既に Webclass で公開しているが、改めて、指摘事項に対する対応について 各自の考えを述べた。概ね、指摘事項を踏まえて以降の授業へ生かす取り組みがされており、また各自の考えを 学科内で共有することができた。

3) 報告書の提出について

今年度は、授業観察報告書および授業公開報告書を各自 Webclass へ UP する方式だったが、授業観察報告者 による Webclass へのの UP が遅れた例もあったことこら、次年度は、授業観察者は速やかに Webclass へ UP すると同時に、授業者への連絡をすることを徹底した。

4) 他学科等の授業観察について

今年度、他学科の授業観察を実施した実績はなかった。しかし、他学科特に一般科目の先生方の授業は非常に 参考にするところが多いとの認識は一致しており、来年度は、努力目標として、1 人1回は他学科の授業公開へ 参加することとした。

5) FD 情報交換会の開催について

公開授業を夏休み前に実施しているのは、その後の授業改善に生かすためであるため、授業公開に関する情報 交換会を早い時期に設定する必要があるとの意見で一致し、次年度は前期末までの実施を計画した。

2. 学修単位の導入について

(出典 平成18年3月16日 教員会議資料)

資料9-2	4 学内研究協議会の	カ議題一覧
年度	厚生補導研究協議会	カウンセリング研究協議会
1 4 年度	・ 女子寮における本校教官の指導体制について ・ 寮則違反に対する指導処置について	・全国学生相談研修会,メンタルヘルス研究協議会の参加報告
		・ 本校学生相談室の現状,実態調査報告 ・ カウンセラーによる講演,実習
15年度	・課外活動指導について ・専攻科学生への対応について	・全国学生相談研修会,メンタルヘルス研究協議会の参加報告 ・本校学生相談室の現状,実態調査報告 ・講演「話の効き方 相手をよく理解するために」
16年度	・学年団活動を通しての新しい学生指導の在り方 について	・全国学生相談研修会,メンタルヘルス研究協議会の参加報告 ・本校学生相談室の現状,実態調査報告 ・講演「意識調査 3年間の蓄積により 高専と普通高校の違いは 」
1 7 年度	・ボランティア活動の推進について・学生の処分及び指導の在り方について	・全国学生相談研修会,メンタルヘルス研究協議会の参加報告・本校学生相談室の現状,実態調査報告・講演「総合失調症の理解」
18年度	・講演「高専生の心理とメンタルヘルス ~明日 からすぐ使える学生指導・学級経営~」	全国学生相談研修会,メンタルヘルス研究協議会の参加報告 本校学生相談室の現状,実態調査報告 講演「教職員のためのメンタルヘルスケア」

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

教務委員会が作成するFD活動計画書に従って学内FD講演会,授業公開・授業参観,FD情報交換会などが組織的に行われている。さらに,授業評価アンケートによる自己評価や,学生指導やカウンセリングなどの資質向上のために厚生補導研究協議会とカウンセリング研究協議会を継続的に実施している。

観点9-2-: ファカルティ・ディベロップメントが,教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

継続的な授業改善については,授業評価アンケートを実施後に各教科担当教員の自己評価と授業 改善策を示した「集計結果と教員の自己評価」を蓄積することにより確認できる(資料9-2-

- 1)。さらに,平成14~16年度の過去3年間における授業評価アンケートの評価値を比較すると (平成17年度は授業評価アンケート項目を一新したので比較できない),経年的に評価値が向上して おり,FD活動が授業改善に結びついている(資料9-2--2)。

授業公開・授業参観を実施後に提出される授業観察報告書と公開授業自己評価報告書をもとに, 学科毎にFD情報交換会(資料9-2--3)が行われ教育力の向上に向けた建設的なアドバイスが 教員間でなされている。さらに,これらの結果を「FD活動報告書」としてまとめ,教員会議で報告 してFD活動の成果と今後の課題を教員全体で共有している(資料9-2--3)。

資料9-2--1

授業改善策の一例

学年	1	学科	機械科	科目名	基礎数学Ⅱ
所属	非常勤		氏 名	川上英巳	

各項目での習熟について、個々の理解度がどうしても違うようである。そのため今後はより練習問題 を増やしてできるだけ多くのものが理解できるよう工夫していきたい。また、設問を増やし授業での 生徒の習熟をできるだけ確認していきたい。

学年	1	学科	M	科目名	物理	
所属	_	般科目理	数系	氏 名	長澤 修一	

(自己評価:アンケート結果の概要と分析、今後の取り組み等についてご記入ください。)

物理は 1 年生において難しい教科(数学的な準備、実験手法、実験レポートの記述法、物理概念 と計算、単位、等々の注意する事柄が多岐に渡る)ですが、よく頑張って、教員の要求する課題やレ ポート等を提出してくれました。授業アンケートでも学生のがんばって取り組んだことがよくわかり ました。ただ、「教員の説明が聞き取りづらかった」とい学生が多かったように思います。これから はよりゆっくりと大きな声で、学生の板書を待って説明することを心がけるつもりです。

学年	1	学科	機械	科目名	化学	έI	
所属	-	般科目理	数系	氏 名	福	胁	純

(自己評価:アンケート結果の概要と分析、今後の取り組み等についてご記入ください。)

平成 17 年度は、前年度の結果を受けて、学生諸君の自主性と積極性を促すこと、授業進度に留意することなどに重点を置いて授業を行った。設間項目がかなり変わったので一概に比較はできないが、学生自身の努力や授業態度については評価がかなり上昇しており、改善の努力が報われた思いである。私の期待に応えてくれた学生諸君の頑張りに敬意を表する。

授業のレベルについては、難しいと考えているものが多いようだが、レベルの維持も大切なことで あることを学生諸君も理解し、自分のレベルを引き上げる努力をするよう望みたい。

担当教員についての評価は、平均 4.35 と思ったより高かったが、質問への対応、話方などに注意を 払いさらに改善を進めていくつもりである。

平成 18 年度は、学生諸君が努力し能力を発揮できるような指導を行い、多くの学生が私の授業から満足感を得られるよう私も努力していきたい。

(出典 平成17年度授業評価アンケート「集計結果と教員の自己評価」

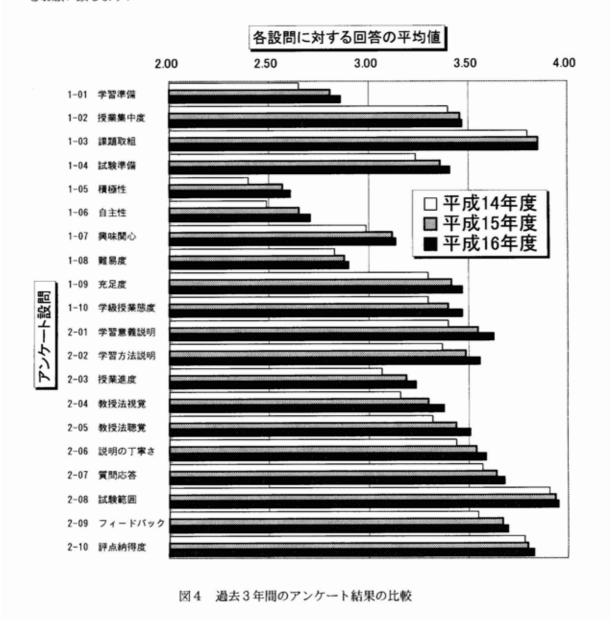
資料9-2- -2

過去3年間のアンケート結果の比較

【4】過去3年間のアンケート結果の比較

図4に過去3年間のアンケート結果の各設間の値を比較して示した図を示す。図4を見て分かるとおり、全ての設問において、今年度(平成16年度)の評価値が高くなっており、また年々授業理解に関する評価が良くなってきている。

授業理解調査を行うようになって、教える側にとっては授業改善への意識が高くなり、また学生にとっては学習意義の理解が浸透することによって、良好な授業改善の成果が表れたものであると考えられる。これらのことにより、図1で示されるように強い相関で授業の評価が高まり、授業への満足感が上昇するといった改善に向けての相乗効果が発揮されているものと考えられる。今後も、更なる改善に向け、この授業理解に関する実体調査を活用していきたいと考えていますので、一層のご理解とご協力をお願い致します。



(出典 平成16年度授業理解に関する実態調査「集計結果と教員の自己評価」)

資料9-2- -3

FD活動報告書抜粋

平成 19 年 3 月 16日 資 料 教 員 会 議 NO. 5-5

平成18年度 教務委員会 業務実行報告書

テーマ	FD 活動支援	担当者: 奥崎真理子 起案日: H18.4.25
目的	函館高専における教育力の向上を促進するため、F	D-WG が軸となって本校の FD 活動を支援する。

- 1. 授業公開・観察の実施
 - ①全教員参加の授業公開・観察
 - ②父母懇談会時に保護者に公開する特別授業 (11月1日土曜日)
- 2. 授業方法改善にむけた FD 支援活動について
 - ① 新任教員説明会の実施(4月)
 - ② 学科による FD 情報交換会の実施 (学科報告のまとめを教員会議で紹介)
 - ③ 学内FD講演会(ないしは研究授業)の実施
- 3. 検討事項
 - (1) H17 年度実施した全教員参加の授業公開・観察の改善 →FD-WG
 - (2) 父母懇談会時に保護者に公開する特別授業の内容と実施方法 →教務委員会
 - (3) 学科 FD 情報交換会の改善 →FD-WG
- 4. 作業日程
 - 6月 FDWG 会議開催・草案作成
 - 7月 教務委員会に原案提出・検討→企画室会議・運営委員会
 - 9月 (~11月) 公開授業と授業観察の実施 (9月の2週間+α)、学内講演会の実施
 - 10月 教務委員会にて父母懇談時の特別授業時間割り確定
 - 11月 父母懇談会時の特別授業公開実施とアンケート回収
 - 12月 父母アンケート結果報告 (WebClass、教員会議)
 - 12月~3月 5学科と一般科目で授業観察と教育技術に関する学科内 印情報交換会実施
 - 3月 教員会議で各学科・科目のFD 情報交換会成果発表
- 5. 学科内FD情報交換会の実施と成果について
 - 目的:授業公開・授業観察のフィードバックを科目、学科、学内で共有し、函館高専教員という対等な立場で 互いを尊重し、各々の授業に対する相互理解を深めつつ、教育力の向上に向けた建設的なアドバイスを 出し合う機会を設ける。

実施方法と時期:

- 学科内教員の授業観察と授業公開が終了した時点(保護者特別授業以降)で、随時学科毎(一般科目は文系・ 理系毎、または科目毎)に情報交換会を開催する。
- ・ 3月上旬までに情報交換会での成果を各学科の FDWG 委員がまとめ、FDWG 部会 (3月中旬) で報告する。
- 大年度につなげる取り組みになるように、学部内FD情報交換会で、学科内での教育力向上に向けた目標(指導力・教育技術の向上について具体的に焦点を絞ったもの)を設定する。次年度以降の授業公開では、その目標を授業観察者に「観点項目」として提供する。
 - 3月末の教員会議でFDWG長よりFDWG部会の報告内容のまとめを発表し、成果と今後の課題を教員全体で共有する。

成果:

- ・授業公開と観察の100%実施
- ・FD 活動の継続

課題:

- FD活動の精査と方向付け
- FDWG 委員と教務委員の役割の明確化

(出典 平成18年3月16日 教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケートを実施後に各教科担当教員の自己評価と授業改善策を「集計結果と教員の自己評価」に示し、授業改善に結び付けている。授業公開・授業参観を実施後に学科毎にFD情報交換会を実施し、これらの結果を「FD活動報告書」としてまとめ、FD活動の成果と今後の課題を教員全体で共有することで教育の質の向上や授業の改善に結び付けている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育点検および教育改善に関する活動は「教育点検・改善システム」として整備されており、具体的かつ効果的に教育を改善できる仕組みとなっている。さらに、外部評価委員会の答申書を反映させた学校全体の自己点検・評価が実施されている。

(改善を要する点)

該当なし

(3)基準9の自己評価の概要

本校では,教育活動の実態を示すデータや資料として,授業評価アンケート結果とそれによる教員の自己評価,公開授業・授業参観による授業観察報告書と公開授業自己評価報告書,答案や課題などの学年成績の評価根拠,学年成績の評価方法を示した学年成績総合評価表を蓄積している。

学生の意見は、授業評価アンケートや学生意見箱により聴取され、授業改善や学習環境の改善などに反映している。学外関係者の意見として、卒業生・企業対象アンケートにより卒業生と企業の意見を聴取し、JABEE対応教育プログラム学習・教育目標の改訂などに反映している。また、外部評価委員会から寄せられた意見は、自己点検・評価に反映している。

学校全体の自己点検・評価は,自己点検・評価部会が実施している。教育改善については,授業評価アンケート,授業公開,教員自己点検,水準チェック会議の評価結果を,教育システム点検検討部会が点検・評価し,運営委員会が改善指示するという継続的に改善が図られるシステムが整備されている。準学士課程4,5年と専攻科課程の全教科について「教育点検・改善システム」に基づいた継続的な改善活動が行われており,答案などの返却率,試験問題の水準,講義時間数,シラバス,学年成績の評価方法,教育改善への取り組み,資料保管について改善がなされている。

教育方法の改善に関する研究については,「函館高専の学生の実態調査分析」の研究が平成14年度より継続的に実施され,メンタルヘルスケアなど学生指導の改善に反映されている。

FD活動に関しては,教務委員会が作成するFD活動計画書により学内FD講演会,授業公開・授業参観,FD情報交換会などが組織的に行われているとともに,授業評価アンケートによる自己評価や,学生指導やカウンセリングなどの資質向上のために厚生補導研究協議会とカウンセリング研究協議会を継続的に実施している。また,授業公開・授業参観を実施後に学科毎にFD情報交換会を実施し,これらの結果を「FD活動報告書」としてまとめ,FD活動の成果と今後の課題を教員全体で共有することで教育の質の向上や授業の改善に結び付けている。

本校では以上のように、教育の質の向上と改善のためのシステムが整備されている。